

資料修復の実演

平成19年11月3日に3回（各回30分程度）和装本の修復実演を行いました。代表的な修理である「裏打ち」「虫損の繕い」「和製本」をご紹介します。



<裏打ち>

材料の裏全面に薄い和紙を貼ることで、そもそもは掛軸などの表装技術です。今回は虫損の甚だしい資料への裏打ちを実演しました。紙が厚く、硬くなるので、元の風合いが失われてしまうこともあって、当館では、虫損の修理にはこの手法を用いることは多くはありません。脆弱になった紙を強化するために行います。



<虫損の繕い>

虫によって損傷した部分のみに、裏から和紙を貼っていく修理です。資料への負担を最小限にし、元の風合いを残すには最適の修理方法です。和紙を使った修復には、その繊維を出した「喰裂(くいさき)」にして、貼ったところに段差がつかないようにするなどのさまざまな工夫があります。



<和製本>

和装本にはさまざまな装訂がありますが、代表的でもっとも簡単な袋綴じ(線装本)の四つ目綴じ（とじ穴が前後の表紙に各4つある綴じ方）の製本を実演しました。

